

## 高速実験炉「常陽」燃料製造について

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
高速炉サイクル研究開発センター  
プルトニウム燃料技術開発センター

令和5年9月27日

- 「戦略ロードマップ」では、実証炉のサイクル技術について、『当面は、軽水炉サイクルとの共通技術を含めて、原子力機構がステークホルダーとの連携を図りつつ開発の中心的役割を果たす必要がある。特に、燃料開発については炉の開発とともに進めていくべきであり、「常陽」を再稼働させ、照射試験能力の維持を含め原子力機構が優先して取り組むべき課題である。』とされている。
- 政府内の検討会で提示された革新炉開発の技術ロードマップ案\*では、実証炉用燃料製造施設について、2020～2030年代に設計・建設され、2040年頃に運転を開始する計画が示されている。

\* カーボンニュートラルやエネルギー安全保障の実現に向けた革新炉開発の技術ロードマップ（骨子案）
- 「常陽」燃料製造については、既存の使用施設を最大限活用するとともに、上記の国の方針に基づき、技術開発を進め、今後着実に整備される新たな燃料製造施設に繋げていくことを検討している。

以 上